

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

大同化学工業における A 重油ボイラーから都市  
ガスボイラーへの更新プロジェクト

排出削減事業者名：大同化学工業株式会社 印

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社 印

その他関連事業者名： 印

申請日： 年 月 日

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	大同化学工業株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	大同化学工業株式会社 奈良生産技術事業所
住所	〒639-1037 奈良県大和郡山市額田部北町 1021
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者（注3）（複数の関連事業者がいる場合、行を挿入し全ての関連事業者を記載すること）	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

大同化学工業における A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへの更新プロジェクト

### 2.2 排出削減事業の目的

A 重油ボイラー1 台を都市ガスボイラー1 台へ更新する。ボイラー更新を実施することにより、ボイラーの高効率化による燃料使用量の削減及び低炭素燃料へのエネルギー転換によって、CO2 排出量を削減する。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

A 重油ボイラーを高効率の都市ガスボイラーへ更新することで燃料使用量を削減し、CO2 排出量を削減する。さらに、都市ガスは A 重油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラーの燃料を都市ガスに転換することにより排出量を削減する。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

（個別項目の欄において具体的に記載すること。）

特になし。

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2012年2月6日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日～2018年5月31日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画5項に沿って記載。

##### 4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

#### 4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

A 重油ボイラーから都市ガスボイラーに更新するボイラー及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備

## 5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	ボイラー都市ガス使用量	Nm <sup>3</sup>	2013 年度：421,228.7 2014 年度：437,138.8 2015 年度：447,839.2 2016 年度：477,265.1 2017 年度：465,674.6 2018 年度：80,342.6	都市ガス会社の請求書に記載された都市ガス使用量を記録し、その値を標準状態ボイラーに使用しているガス量は請求書上の3つのメーター番号のうち、51-00-330-00-0710 の値である。(換算係数=1.045 で除して標準状態に換算する。)	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/ 千Nm <sup>3</sup>	2013 年度～2014 年度：45.1 2015 年度～：2016 年度：45 2017 年度～：2018 年度：45.1	デフォルト値	変更なし
$\epsilon_{BL}$	燃料転換前ボイラー効率	%	82.7	カタログ値 (高位発熱量)	変更なし
$\epsilon_{Pj}$	燃料転換後ボイラー効率	%	82.8	カタログ値 (高位発熱量)	変更なし
$CF_{fuel, BL}$	A 重油の単位発熱量あたりの排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	2013 年度～2018 年度： 0.0708	デフォルト値	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	都市ガスの単位発熱量あたりの排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	2013 年度～2018 年度：0.0513	デフォルト値	変更なし

## 7 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

### 7.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	421,228.7	0.0451	0.0513	974.6
2014 年度	437,138.8	0.0451	0.0513	1,011.4
2015 年度	447,839.2	0.0450	0.0513	1,033.8
2016 年度	477,265.1	0.0450	0.0513	1,101.8
2017 年度	465,674.6	0.0451	0.0513	1,077.4
2018 年度	80,342.6	0.0451	0.0513	185.9
単位	Nm3	GJ/ Nm3	tCO2/GJ	tCO2
EM <sub>PJ</sub>				5,384.9

### 7.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	19,020.4	—	0.0708	1,346.6
2014 年度	19,738.8	—	0.0708	1,397.5
2015 年度	20,177.1	—	0.0708	1,428.5
2016 年度	21,502.9	—	0.0708	1,522.4
2017 年度	21,027.3	—	0.0708	1,488.7
2018 年度	3,627.8	—	0.0708	256.9
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
EM <sub>BL</sub>				7,440.6

### 7.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0

2018年度	0			0
	LE			0

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	<i>EM<sub>BL</sub></i>	7,440.6
事業実施後排出量	(7.1)	<i>EM<sub>PJ</sub></i>	5,384.9
リーケージ排出量	(7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量		<i>ER</i>	2,055

## 8 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	モニタリング期間 ( 2013年 4月 1日 ~ 2018年 5月 31日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)		原油換算 (kl)		
	単位	ベースライン	実績	ベースライン	実績	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
A重油	kl	2,687.8		105,094.4		2,711.4		2,711.4
都市ガス	千 N m <sup>3</sup>		2,329.5		104,827.0		2,704.5	- 2,704.5

省エネルギー量 (原油換算) = 6.9 kl

## 9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 ( 年 月 日 ~ 年 月 日)		
	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
	単位 (実績)	(実績)	(実績)